

平成 26 年度事業報告

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

概説

- I 囲碁普及事業（公益目的事業 1）
 - 1 棋戦事業
 - 2 棋士育成事業
 - 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
 - 4 囲碁対局環境の提供
 - 5 段級位認定
 - 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
 - 6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動
 - 7 表彰
 - 8 囲碁関係情報提供
 - 9 囲碁殿堂資料館
 - 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部
 - 10-4 海外囲碁センター
- II 収益事業
 - 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業 1）
 - 2 不動産賃貸事業（収益事業 2）
 - 3 販売品、書籍事業（収益事業 3）
- III 管理部門
 - 1 受取寄付金
 - 2 コンプライアンス（内部統制）
 - 3 「日本棋院 90 周年」事業

概説

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

また、平成26年度は、「日本棋院 創立90周年」にあたる節目の年でありました。この節目にあたり、「ありがとう ファンとともに90年」を基本コンセプトに記念事業などを展開しました。

I 囲碁普及事業(公益目的事業1)

1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の様子は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

なお、井山裕太棋士が大三冠すべて堅持し、四冠(棋聖、名人、本因坊、碁聖)を堅持しました。

また、平成26年度は、新たな棋戦としてグロービス杯世界囲碁U-20と会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦及び日中竜星戦、おかげ杯国際新鋭対抗戦を創設しました。

これらを含めた棋戦の結果は以下の通りです。(段位は対局当時)

(1) 棋聖戦(第39期 棋聖決定七番勝負 読売新聞社)

井山 裕太 棋聖 — 山下 敬吾 九段

(井山 裕太 棋聖が4勝3敗で棋聖位を3連覇)

(2) 名人戦(第39期 名人決定七番勝負 朝日新聞社)

井山 裕太 名人 — 河野 臨 九段

(井山 裕太 棋聖が4勝2敗で名人位を防衛)

(3) 本因坊戦(第69期 本因坊決定七番勝負 毎日新聞社)

井山 裕太 本因坊 — 伊田 篤史 八段

(井山 裕太本因坊が4勝1敗で本因坊位を3連覇)

(4) 王座戦(第62期 王座決定五番勝負 日本経済新聞社)

井山 裕太 王座 — 村川 大介 七段

(村川 大介 王座が3勝2敗で王座位を奪取)

(5) 天元戦(第40期 天元決定五番勝負 新聞三社連合)

井山 裕太 天元 — 高尾 紳路 十段

(高尾 紳路 十段が3勝2敗で天元位を奪取)

- (6) 碁聖戦 (第 39 期 碁聖決定五番勝負 新聞囲碁連盟)
井山 裕太 碁聖 — 河野 臨 九段
(井山 裕太 碁聖が 3 勝 2 敗で碁聖位を 3 連覇)
- (7) 十段戦 (第 52 期 十段決定五番勝負 産経新聞社)
結城 聡 十段 — 高尾 紳路 九段
(高尾 紳路 九段が 3 勝 2 敗で十段位を奪取)
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦 (第 21 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
井山 裕太 棋聖 — 河野 臨 九段
(井山 裕太 棋聖が勝ち優勝)
- (9) 阿含・桐山杯日中決戦 (第 16 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)
井山 裕太 九段 — 柯 潔 九段
(柯 潔 九段が勝ち優勝)
- (10) 新人王戦 (第 39 期 しんぶん赤旗)
志田 達哉 七段 — 一力 遼 七段
(一力遼 七段が 2 勝 1 敗で新人王を獲得)
- (11) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第 61 回 NHK)
伊田 篤史 八段 — 一力 遼 七段
(伊田 篤史 八段が勝ち初優勝)
- (12) 竜星戦 (第 23 期 囲碁将棋チャンネル)
河野 臨 九段 — 余 正麒 七段
(河野 臨 九段が勝ち優勝)
- (13) 日中竜星戦 (第 1 回 囲碁将棋チャンネル)
河野臨九段 — 古力九段
(古力九段が勝ち優勝)
- (14) 囲碁マスターズカップ (第 4 回 フマキラー)
二十五世本因坊治勲 — 小林 覚 九段
(二十五世本因坊治勲が勝ち 2 度目の優勝)
- (15) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第 1 回 グロービス)
一力 遼 七段 — 許 家元 二段
(一力 遼 七段が勝ち優勝)
- (16) 女流本因坊戦 (第 33 期 三番勝負 共同通信社)
向井 千瑛 女流本因坊 — 藤沢 里菜 二段
(藤沢 里菜 二段が 3 勝 0 敗で女流本因坊位を奪取)

- (17) 女流名人戦 (第27期 三番勝負 産経新聞社)
 謝 依旻 女流名人 — 鈴木 歩 六段
 (謝 依旻女流名人が2勝0敗で女流名人位を8連覇)
- (18) 女流棋聖戦 (第18期 三番勝負 NTTドコモ)
 謝 依旻 女流棋聖 — 小西 和子 八段
 (謝 依旻 女流棋聖が2勝0敗で女流棋聖位を防衛)
- (19) 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦 (第1回 温知会)
 奥田 あや 三段 — 藤沢 里菜 二段
 (藤沢 里菜 二段が勝って優勝)
- (20) 王冠戦 (第55期 中日新聞社)
 羽根 直樹 王冠 — 山城 宏 九段
 (羽根 直樹 王冠が勝ち王冠位を4連覇)
- (21) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第9回 広島アルミニウム工業)
 本木 克弥 三段 — 六浦 雄太 初段
 (本木 克弥 三段が勝ち優勝)
- (22) おかげ杯 (第3回 濱田総業)
 瀬戸 大樹 七段 — 一力 遼 七段
 (一力 遼 七段が勝ち2連覇)
- (23) おかげ杯国際新鋭対抗戦 (第1回 濱田総業)
 3名1組の団体戦。団体戦順位による女流戦
 (団体、女流個人ともに韓国が優勝)
- (24) ゆうちよ杯囲碁ユース選手権 (第1回 ゆうちよ銀行)
 余 正麒七段- 本木克弥三段
 (余 正麒七段が勝ち優勝)
- (25) 棋戦優勝者選手権戦 (2014年) (日本棋院、関西棋院)
 井山 裕太 四冠 — 高尾 紳路 天元・十段
 (井山 裕太 四冠が勝ち2連覇)
- (26) 海外棋戦

国際棋戦では、新設されたグロービス杯世界囲碁U-20で一力遼七段が優勝の栄冠を勝ち取りました。決勝戦の対戦相手は日本の許家元二段で、ファン待望の日本対決になりました。

また、河野臨九段がテレビアジア選手権で決勝進出を果たし、結果は準優勝でしたが、ナショナルチームのメンバーとして、着実に結果が表れています。

① LG杯、三星火災杯、農心杯、テレビアジア選手権 (韓国)、春蘭杯、百霊杯、黄竜士双登杯、天台山葛玄緑茶杯、穹窿山兵聖杯、利民杯、国際新鋭囲碁対抗戦、スポーツアコードワールドマインドゲームズ、丙級リーグ (中国) の海外棋戦に参戦しました。

② 平成 25 年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『GO・碁・ジャパン』を結成し、2年目を迎えました。

26 年度も監督、コーチ、選手の総勢 60 名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。

チーム参加棋士の棋力強化に向けた取組として、イ、香川県坂出市にて囲碁での棋力強化合宿、ロ、「幽玄の間」による毎週末の強化対局、ハ、中・韓棋譜データによる棋譜研究を実施しました。

また、平成 25 年度に創設した、チームの活動を支援することを目的とした「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、26 年度はファンの皆様から 1,215 件の募金がありました。

募金は、チーム参加棋士の棋力強化合宿経費等に活用し、チーム強化を図りました。

2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施しました。

(1) 院生強化育成

① 院生研修

棋士を目指す約 100 人の院生を A から E クラスに分け毎週土・日曜日(8 回/月)に研修を東京本院・中部総本部・関西総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。

毎月の成績によりクラスの昇降を行い、院生の中から夏季採用として本院の 4 月～6 月期研修総合成績 1 位の者 1 名、本院・中部・関西の院生研修上位者 39 名と外来受験者 31 名が参加し 8 月～11 月に棋士採用試験を各本部で実施し計 4 名、また、12 月～2 月に女流特別採用を実施し 1 名、合計 6 名の棋士採用を実施しました。

- ・ 本院夏季採用 (1 名) 芝野 虎丸
- ・ 本院冬季採用 (2 名) 大西 竜平、横塚 力
- ・ 中部本戦採用 (1 名) 伊藤 健良
- ・ 関西本戦採用 (1 名) 宇谷 俊太
- ・ 女流特別採用 (1 名) 牛 栄子

② 院生研修検討会

院生研修日には、タイトル・リーグ入り経験のある棋士による研修対局の解説検討指導を 143 回実施しました。

③ 院生ネット指導

毎週火・水・金にネット対局「幽玄の間」を利用し、棋士による個別対局指導を 305 局実施しました。棋譜については一般公開しました。

(2) 若手棋士育成

① 囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に 20 歳以下の若手棋士 25 名が参加

香川県坂出市において、12 月 26 日から 31 日までの日程で、U-20 の一力遼七段、藤沢里菜二段を始めとする 17 名の若手棋士が、一般選手、監督・コーチとあわせた計 43 名(関西棋院棋士を含む)で、棋力強化合宿を実施しました。

② 中国遠征（2013 中野杯上位者を派遣）

2014 利民杯世界星鋭最強戦・予選ラウンド（8 月 15 日～17 日）に第 10 回中野杯のベスト 8 入賞者のうち 5 名（余正麒七段、平田智也三段、孫喆三段、鶴田和志三段、大西研也二段）を派遣。

③ 語学スキルアッププラン

近年の急速なグローバル化に対応するため、世界に通用する人材を育成するスキルアッププランを実施。5 名の棋士（三谷哲也七段、熊ホウ六段、大澤奈留美四段、青葉かおり四段、種村小百合二段、小松大樹二段）が、約 9 ヶ月間英会話スクールで受講し、最終的に資格試験を受験しました。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員、学校囲碁指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ 504 名の棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア教室の開催

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し、とくに小学校では授業に囲碁をとりいれてもらう働きかけを強化しました。

平成 26 年度は、小学校の正課授業として 28 校 7,768 人、正課授業以外として 77 校 13,532 人が参加いたしました。

平成 26 年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおり。

岩見沢市立栗沢小学校、能代市立湊城西小学校、中央区立明石小学校、中央区立阪本小学校、中央区立常盤小学校、中央区立城東小学校、中央区立中央小学校、中央区立明正小学校、中央区立泰明小学校、中央区立月島第二小学校、中央区立京橋築地小学校、品川区立浅間台小学校、文京区立小日向台町小学校、千代田区立九段小学校、千代田区立千代田小学校、渋谷区立笹塚小学校、渋谷区立神南小学校、小金井市立南小学校、杉並区立高井戸第四小学校、北本市立南小学校、川口市立芝樋ノ爪小学校、横浜市立西前小学校、川崎市立はるひ野小学校、太田市ぐんま国際アカデミー、三次市立八次小学校、庄原市立西城小学校、庄原市立山内小学校、大田市立仁摩小学校

〈主な行政囲碁事業の取組み〉

【東京都中央区】

平成24年から区内の4つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、平成26年度は9つの小学校に対象を拡大し、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校37校のうち、31校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」(文部科学省・厚生労働省)において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。また、6月には、「品川区ジュニア囲碁フェスタ2014」を開催し、約550人が参加しました。

【埼玉県北本市】

平成26年度は、3つの小学校で囲碁体験授業を開催しました。第9回を迎えた北本ジュニア囲碁まつりの開催とともに、教育委員会と日本棋院が連携し、事業を推進しています。毎年開催される指導者講習では地元指導者を増やし、事業を盛り上げています。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、公益財団法人JK Aの青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国17カ所で実施し、約500人が参加しました。

(4) 囲碁少年少女育英資金活用による事業

学校教育への囲碁導入に際して、指導員の派遣、囲碁大会、用具支援等を実施しました。

- ① 高校1校で延べ50人、小学校35校で延べ1,002人、保育園4園で延べ74人、幼稚園2園で延べ16人、合計1,142人の指導員を派遣しました。
- ② 小学校12件、中学校5件、保育園3件、計20件の用具支援及び大会トロフィー寄贈2件を実施しました。

(5) 大学での囲碁授業の導入拡大

① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成17年より、東京大学教養学部と連携して1、2年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設しています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取組みを継続的に行っています。

② 新たに4大学において囲碁授業を開始

平成25年度までに囲碁授業を実施した東京大学、東邦大学、早稲田大学、慶應大学、青山学院大学、埼玉大学、皇学館大学、琉球大学、京都大学、名古屋大学、東京工業大学、筑波大学、江戸川大学、福山大学、近畿大学の計15大学に加え、大阪大学、一橋大学、神奈川大学、福島大学、また日本農業経営大学校を含めて合計20校にて囲碁授業を開講し、日本棋院は囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。平成27年度はさらに1大学で囲碁授業が新たに開始します。今後も囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に行っており、10校程度と新規開講に向けて準備取組み中です。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成17年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。

平成26年度も、42社よりご支援を頂きました。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で指導碁を実施し、実施局数は延べ2,154局にのびりました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。国内で745件実施し、延べ878人の棋士を派遣しました。

(5) 囲碁未来教室の開催

月刊誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援しました。全国135カ所で実施しました。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、地域の県本部と連携し、全国各地で囲碁イベントを実施する等、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国8カ所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行いました。

第35回普及功労賞 我孫子健一 (北海道本部 理事長)
山本 正 (神奈川県支部連合会 副会長)
間宮 通夫 (三重県支部連合会 参与)
大澤 真夫 (前砺波支部 支部長)
久保 恒 (佐賀中央支部 代表)

第33回普及活動賞 全国で57名を表彰

平成 26 年度優秀支部表彰 支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）1226 P
会員増十傑 一位 浜北支部（静岡県）24 名

(7) 留学生対象の囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、10 月 14 日、21 日の 2 回にわたり、囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されています。囲碁の授業は 2005 年より始まり、今年度で 10 回目を迎えました。

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、2014 年国際囲碁連盟（IGF）の副会長国として、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁団体の活動支援に努めました。

(2) 棋士の海外派遣

① 三谷哲也七段と小松大樹二段を 7 月 30 日から 8 月 9 日までルーマニア・シビウで開催された第 58 回ヨーロッパ碁コンGRESS に派遣し、普及指導及び交流を図りました。

② 第 30 回 US 碁コンGRESS のため、8 月 7 日から 8 月 15 日まで熊ホウ六段をニューヨークに派遣しました。

③ 5 月 27 日から 6 月 4 日まで、北欧囲碁普及のため、フィンランド、ノルウェーに三谷哲也七段を派遣しました。

④ 10 月 10 日から 12 日まで、英国・ダーラム大学で開催される日本文化週間での囲碁指導のため小林千寿五段を派遣しました。

⑤ ドイツ・ベルリンで開催された第 6 回日本大使杯大会で囲碁指導を行うため、10 月 9 日から 10 月 13 日まで、大橋拓文六段を派遣いたしました。

⑥ 11 月 13 日から 20 日まで、シアトル碁センターに熊ホウ六段を派遣し、地元シアトルの愛好家を中心にワークショップを開催しました。

(3) サマースクールの開催

8 月 26 日から 9 月 4 日まで、外国人愛好家を対象にした、囲碁研修を実施しました。棋力向上と、日本の囲碁文化を学ぶという目的のもと 22 名が参加し、研修は、すべて英語で実施しました。さまざまなプログラムが経験出来た事で参加者には大変好評で、更に実施期間を延長した事業の継続を望む声が多くありました。

(4) 日露交流事業

日露青年交流センター主催の「囲碁交流招聘プログラム」で、ロシアからの囲碁愛好家 26 名が来日。10 月 25 日に囲碁の歴史のセミナーを受講し、日本棋院を見学しました。また、10 月 26 日には、大学生との交流対局戦を実施しました。2015 年度は、日本からの大学生が数名ロシアを訪問し、現地で囲碁交流の予定となっています。

(5) インバウンド交流事業

グレイトブリテン ササカワ助成事業『英国囲碁文化普及プロジェクト』を 10 月 2 日から 10 月 13 日まで実施、25 歳以下の青少年を 3 名英国から招聘し、囲碁研修を実施しました。

4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

(1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」など来館者の組合せを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁が楽しめる環境を提供し、延べ27,120人が利用しました。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上で手軽に対局を楽しめる環境を提供しています。

平成26年度は4月より学生割引、家族割引、情報会員サービスとのセット割引を導入し、多数の方にご利用いただきました。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりでは、2,716人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、634支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行いました。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会および地区大会が例年に近い規模で開催されたほか、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行いました。

(1) 第35回 文部科学大臣杯少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手による全国大会を7月29日、30日の日程で、東京の日本棋院で開催しました。地方大会では複数会場での開催を呼びかけ、4,609人が参加（小学生：3,273人・中学生1,336人）し、入門者・初級者大会も実施しました。全国大会は、小学生100人、中学生99人が参加し、大会の様子はNHK Eテレで放送されました。小学生の部は北芝礼く

ん(愛知・名古屋市立藤が丘小学校6年)、中学生の部は高嶋溪吾くん(神奈川・川崎市立金程中学校3年)が優勝しました。本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(2) 第11回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学校での部活動や正課授業の取り組みの一助となるよう大会の充実を図りました。地方大会は小学校306校、1,067人、中学校228校、856人が参加。全国大会は7月27日・28日の2日間、小中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチームの団体戦で開催し、小学校、中学校それぞれ64校、192名が参加。小学校の部は長久手市立西小学校(愛知)が、中学校の部は麻布中学校(東京)が優勝した。本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(3) 第38回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

地方予選では1,080校、3,780人(男子:2,584人・女子1,196人)が参加。各都道府県大会を勝ち抜いた代表選手による全国大会は7月22日から24日までの3日間で、団体戦・個人戦を行い、男子団体(代表50校)は、宮城・仙台第二高校、女子団体(代表46校)は、東京・豊島岡女子高校が優勝。男子個人(代表98名)は、星合真吾君(東京・砂川高校3年)、女子個人(代表50名)は、野村美奈さん(神奈川・光陵高校2年)が優勝しました。地方大会においては複数会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数の増加を目指しました。本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(4) 第4回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

都道府県大会において選抜された小学生低学年の部46名、小学生高学年の部45名の計91名がこども棋聖の称号をかけて競いました。高学年の部は森田拳くん(京都・京都市立下京渉成小学校6年)、低学年の部は福岡航太朗くん(東京・筑波大学附属小学校3年)が優勝しました。

(5) 第3回ロッテこども大会

中学生以下の入門から級位者を対象に、5月3日東京の日本棋院で開催しました。コアラのマーチのキャラクターを使った親しみやすいイベントがこどもたちの人気を呼び、約900人が参加しました。

(6) その他の大会

- ・ ジュニア囲碁大会
- ・ ジュニア囲碁パーク

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会並びに地域独自の大会を開催しました。主な大会は以下の通りとなりました。

(1) 第7回宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会である。全国10ブロック、11会場で11の地方大会を延べ12日間開催し、7,305人が参加。11月30日に京都のホテルグランヴィア京都において全国大会を開催し、チャンピオンを決定しました。

(2) 第57回全日本女流アマ選手権戦

各県大会を勝ち上がった選手96人により、3月14日・15日の日程で全国大会(会場:日本

棋院会館)を開催しました。藤原彰子さんが二連覇を果たしました。

(3) 第52回女流アマ都市対抗戦

アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦であり、1チーム5名の団体戦です。11月18日・19日の2日間、香川県高松市で開催しました。全国から611人の選手が参加し、6クラス中最上位のAクラス紅組は、東京の「紅友会」が優勝しました。

(4) 第14回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1チーム3名編成の団体戦であり、東京と大阪の2会場で開催され、2会場の優勝チームによる決勝戦を11月23日に東京日本棋院会館で開催しました。優勝の「団碁汁」チームには、内閣総理大臣杯が授与されました。

(5) 阪急納涼囲碁まつり in Tokyo の開催

平成23年より大阪で毎年開催され好評を博していた「阪急納涼囲碁まつり」が、初めて東京でも開催されました。会場の第一ホテル東京には8月14日・15日の二日間で、のべ1,214名が来場し、公開対局、囲碁大会等の様々なイベントに参加しました。

(6) 都道府県民まつりの開催

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加する「世界アマ大会」への国内予選を開催し、1,857人が参加しました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、1,853人が参加しました。

(7) 全国規模イベントへの参加

「ねんりんピック健康福祉祭」の囲碁交流大会は、10月5日、6日に栃木県下野市で開催され、生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として棋士を派遣しました。

(8) その他大会等

平成25年から1月5日を「囲碁の日」と制定し、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催しました。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催し囲碁ファンの交流の場とするとともに、棋力向上につながる機会づくりを行いました。

6-3 国際囲碁選手権の開催協力および海外囲碁大会等への協力

(1) 第35回世界アマチュア囲碁選手権戦

韓国・慶州大会が韓国棋院の主催で開催されました。

2010年から、世界アマチュア囲碁選手権戦は、日本・中国・韓国で2年ごとに開催国が交代する輪番制となり、2013年は日本で開催しました。

(2) 第4回北京スポーツアコードワールドマインドゲームズ

2014年12月11日～17日、北京インターナショナル コンベンションセンターにて開催され、日本チーム5名は男子団体戦、女子個人戦、ペア戦に出場しました。

(3) 韓国首相杯国際アマチュア選手権戦、ワールドユース選手権戦、ハンファ生命杯少年少女選手権戦にそれぞれ選手を派遣しました。

6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動

東日本大震災により被災された支部及び会員の方々への支援と被災された囲碁ファンの皆様に元気になっていただくイベントの開催等を目的として、平成23年に創設したタケフ基金を活用し、本年度は被災した青森県、岩手県、宮城県、福島県に秋田県、山形県を加えた東北6県が一堂に会し「タケフの絆・こころの碁交流大会」を開催しました。

●東北6県復興祈念囲碁イベント「タケフの絆・こころの碁交流大会」

○日程：平成26年11月1日（土）～11月2日（日）

○会場：福島県福島市 「福島民報社」（大会）
福島県福島市 「ホテル福島グリーンパレス」

○主催：公益財団法人日本棋院

○主管：日本棋院福島県支部連合会

○共催：東奥日報社、岩手日報社、河北新報社、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送、福島民報社

○後援：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、福島市

○協賛：宝酒造株式会社

○参加棋士：二十四世本因坊秀芳、工藤紀夫九段、マイケル・レドモンド九段、河野光樹八段、黒瀧正憲八段、水間俊文七段、宮崎龍太郎七段、加藤啓子六段、黒瀧正樹六段、平野則一五段（常務理事）、武宮陽光五段、小松英子四段、万波奈穂三段、風間隼二段、藤沢里菜会津中央病院杯、外柳是聞初段

○開催概要：

- ① 東北6県プロ・アマ団体対抗戦 被災4県に東北2県を加え、ゆかりのある棋士2名とアマ7名（一般枠4名、こども2名、女性1名）によるプロ・アマ混合の9人編成の団体戦。
- ② 復興祈念クラス別囲碁大会 棋力別に3クラスに分かれ、それぞれのクラスで3回戦を戦う個人戦。
- ③ 東北6県、県本部・県支部連合会役員等対抗戦 各県本部、支部連合会の役員を中心とした5人編成の団体戦。
- ④ 棋士による多面打ち指導碁。 参加者は上記大会参加者を含め、延べ273人。

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ2015年3月31日に合同表彰式を実施しました。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第44回大倉喜七郎賞 濱田 益嗣（株式会社濱田総業 代表取締役会長）
永田 武彦（株式会社北見ハッカ通商 代表取締役社長）
大宮 久（宝酒造株式会社 代表取締役会長）
羽根 泰正（日本棋院中部総本部所属棋士 九段）

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

第52回秀哉賞 井山裕太 棋聖、名人、本因坊、碁聖、阿含・桐山杯

(3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」(昭和42年)によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第48回棋道賞/最優秀棋士賞	井山裕太 棋聖、名人、本因坊、碁聖、阿含・桐山杯
優秀棋士賞	高尾 紳路 天元、十段
新人賞	金沢 真 七段
	藤沢 里菜 女流本因坊、会津中央病院杯
女流賞	藤沢 里菜 女流本因坊、会津中央病院杯
国際賞	一力 遼 グロービス杯、新人王
最多勝利賞	河野 臨 竜星 (50勝26敗)
勝率第一位賞	許 家元 三段 .7895 (45勝12敗)
連勝賞	河野 臨 竜星 19連勝
最多対局賞	河野 臨 竜星 76局

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰(殿堂入り)します。

平成26年度 橋本 宇太郎 九段 (関西棋院)

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

(1) 雑誌、新聞の発行

① 月刊「碁ワールド」定価885円 毎月20日発売 B5判 152頁建

中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。巻頭企画は、表紙とグラビア、特集ページを連動させ、囲碁ファンに棋士の魅力を伝えるとともに、10月号では日本棋院創立90周年特集及び90年史の連載をスタート、1月号では恒例の認定100問別冊付録に加え、株式会社ドリームインキュベータとの共同企画「私と囲碁」の連載をスタートしました。

② 月刊「囲碁未来」定価637円 毎月5日発売 B5判 100頁建

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための講座・読み物、布石・定石等の問題を多数掲載しました。4月号からは、初級・中級・上級とクラス別の誌面構成とし、新規講座をスタート、併せて表紙もリニューアルしました。

③ 新聞「週刊碁」定価280円 毎週月曜日発行 タブロイド判 20頁建

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成であり、囲碁愛好者に情報を発信しました。

また、囲碁世界戦において日本の棋士が一丸となって戦う「囲碁ナショナルチーム」の活

動や、新規棋戦、大学での囲碁授業の導入等を紹介しました。

④ 「囲碁年鑑」定価3,780円 年1回発行 B5判 396頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成25年一年間の囲碁情報を掲載しました。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、年間800以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新しました。棋士プロフィールなどの囲碁情報や入門ページ、英文ページなどを含め、全世界から年間2,900万アクセスがありました。

また、日本棋院90周年特設サイトを設置し、囲碁大使や記念イベントの紹介を行いました。

② 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を2,000局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページの全面リニューアルを行い、利用者に分かりやすいサイト作りを行いました。

- ・ 棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・ 同好会機能による囲碁ファン同士の交流

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60年以上に亘る、5万局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

また、ホームページの全面リニューアルを行い、利用者に分かりやすいサイト作りを行いました。

④ 碁バイルセンター

携帯電話で囲碁情報や、棋譜データの配信などを行っていた碁バイルセンターは利用者減少のため、平成26年6月をもってサービスを終了しました。

⑤ 電子書籍アプリ

iPhone&iPad 端末からは「i碁BOOKS」、パソコンからは「e碁BOOKS」として週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、単行本、各誌の講座をまとめたムックを電子書籍アプリで配信しました。

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。平成26年度入館者数は5,546人、特別対局室見学者は596人。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1 有楽町囲碁センター

有楽町囲碁センターは、平成25年6月に移転以降、立地の良さ並びにファンの皆様に喜ばれるイベント等を開催して多くのファンに来館頂きました。

(1) 各種大会の開催（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・ お楽しみ囲碁大会 248人
- ・ 段位認定大会 652人
- ・ 松竹梅囲碁大会 537人

(2) 会館事業

一般対局室の入場者は62,731人。一般棋士による指導碁、囲碁教室を開催し、多くの方に利用頂きました。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

また、平成26年7月に当本部の事務局機能の移転に伴いリニューアルオープンした「梅田囲碁サロン」を新しい普及拠点として活動を行いました。

(1) 各種大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・ 夏休み子ども囲碁フェスティバル（延べ700人）
- ・ 歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり（138人）
- ・ 阪急電鉄 納涼囲碁まつり（2日間で延べ1,500人）
- ・ 定例段級位認定大会（年6回で延べ458人）
- ・ 級位者大会[年5回]およびシニア大会[年4回]（合計311人）

(2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン）

旧関西総本部をリニューアルした「梅田囲碁サロン」を年末年始以外、年中無休で営業し普及に努めました。

会館ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日、有段者の集いを開催し、貸室利用においては増設されたスペースを活用し、囲碁学校、入門教室をはじめ各種団体の勧誘を行いました。また、販売サービスとして盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えの充実にも努め、快適な環境改善を図り昨年より多い年間約24,600人に利用して頂きました。

(3) 大学での囲碁講座開設への取組み

平成26年度は新たに大阪大学が加わり、関西圏の大学3校で囲碁講座が取り入れられました。引き続き各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行い、若者層への普及拡大を行います。

(4) 小中学校への囲碁普及活動の充実

一昨年から関西財界の協力を得て関西棋院と共催して行っている「関西学校普及事業（小学校こども囲碁入門教室）」を地元の囲碁協会と協力して推し進め、市の行政や教育委員会の理解を得て豊中市、尼崎市そして寝屋川市において小学生を対象にした囲碁大会を開催しました。

また、すでに小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等、関西の子ども達への普及を一層拡大するように努め、公立小学校の総合学習の時間やクラブ活動の時間を利用した「囲碁体験入門教室」と上記大会を合わせた年間の参加者数はのべ3,120人

(小学校 22 校) に達しました。

(5) 当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及

関西圏の中心都市部以外の遠隔地域の囲碁普及として各地域の支部や囲碁団体の協力を得て、平成 26 年度は前年度より 2 地区増（尾道市、和歌山市）の 6 地区に拡大実施しました。また、当大会による地域との連携強化を図るとともに、個人、支部会員等の維持拡大及び支部を拠点とした普及活動の充実に努めました。

10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・ 囲碁ゼミナール（95 人）
- ・ 東海地区朝日アマ団体十傑戦（111 人）
- ・ ジャンボ団体戦（220 人）
- ・ 中部こども級位者大会（151 人）
- ・ 会員と棋士囲碁のつどい（181 人）
- ・ セントレア囲碁まつり（230 人）

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・ 中日新聞社主催「第 55 期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

① 指導碁は、平日 1 名、土・日曜日は 1、2 名の棋士を配し、充実に努めました。

② 院内イベントの充実に努めました。

- ・ 「10 アンダーの日」
- ・ 「級位者の日」、「有段者の日」
- ・ 「Happy 級位者の日」、「Happy 有段者の日」

③ 入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、講習会を全 13 講座開設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。

10-4 海外囲碁センター

(1) 2010 年 11 月以来閉鎖していたニューヨーク碁センターのビルについては、理事会の決定に基づき、2014 年 5 月に売却を完了しました。アメリカ囲碁協会と提携して米国 NPO 法人『岩本北米囲碁基金』を創設し、売却により得られた資金 200 万ドルを同基金に寄付しました。（※岩本北米囲碁基金は『アメリカ東海岸碁センター』の活動促進や、また文化交流、指導プログラムなど北米での囲碁普及活動を支援していきます）

(2) 北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターの活動を支援するため、現地法人と連携をとりながら、シアトルへ棋士派遣を行いました。

(3) ブラジル・サンパウロにある南米本部、並びにオランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センターについては、運営に係わる契約を新たに締結して、それぞれのセンタービルを現地普及団体に貸与し、現地法人と連携をとりながら囲碁普及活動を支援しました。

Ⅱ収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。

免状は、棋力の証明となるのもので、三級から八段までの2,175通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を与え、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。指導員になるための指導員研修会の開催と書類審査を実施しました。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸しました。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書など、囲碁に関する単行本を発行しており、約150点の書籍を日本棋院各拠点の売店及び全国の書店で販売しました。

本年度は以下12点の新刊を発刊した。

井山、黄の定石研究	2014年6月27日発売	定価1,296円	B6判	224頁建
新版 基本死活事典	2014年8月2日発売	定価3,024円	B6判	640頁建
布石はこう打つ	2014年12月1日発売	定価1,080円	B6判	224頁建
お悩み天国 ②	2014年12月26日発売	定価1,080円	B6判	216頁建
定石を覚えよう	2015年1月30日発売	定価1,080円	B6判	224頁建
GO・碁・ドリル①～⑤	2015年2月12日発売	定価540円	A5判	88頁建
眠る前の小さな詰碁1・2	2015年3月24日発売	定価810円	文庫	272頁建

Ⅲ 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、寄付金等取扱規程を平成25年4月1日制定し、寄付金の取扱い、手続きや寄付者への公益法人による税制上の優遇制度の理解促進に努めました。

2 コンプライアンス

公益法人として、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。

平成26年度は、内部統制取組方針に基づき、取組み項目全13項目（コンプライアンス行動規範～不正通報体制整備）に取組み、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、ヘルプデスクの設置等の改善取組みを実施しました。

今後も引き続き、コンプライアンス行動規範の徹底を行うとともに、入出金の適正化など継続的に適正な見直しを行います。

3 「日本棋院90周年」事業

日本棋院は、平成26年度に創立90周年を迎え、この記念の年にあたり、「ありがとう ファンとともに90年 日本棋院は囲碁の継承と発展を目指し歩み続けます」をスローガンに、記念事業を行いました。

- (1) ファン感謝のため、全国約70の支部に対して棋士派遣を行い、指導碁等地域に密着した取組みを行いました。
- (2) 日本棋院会館の修繕事業として改修を実施。
なお、本改修には、日本財団様より助成金を受け修繕事業を実施いたしました。
 - ① 1階エントランス補修工事
 - ② 2階転落防止補修工事
 - ③ 5階壁面ひび割れ、崩落修繕工事
 - ④ 6階洋室補修工事
 - ⑤ 給水、排水管修繕工事
- (3) 市ヶ谷本院、関西総本部、中部総本部において記念式典を行いました。
 - ① 市ヶ谷本院
平成26年10月3日 イベント 「ゆうちょ杯決勝戦」公開対局・解説会
〃 式典 感謝状贈呈及びタイトル棋士出席による懇親会
 - ② 関西総本部（平成26年10月13日実施予定が台風のため順延）
平成27年2月11日 イベント 大指導碁会
(関西総本部所属棋士による3面打ち指導碁)
〃 式典 感謝状贈呈及びタイトル棋士による記念対局
 - ③ 中部総本部
平成26年10月17日 式典 感謝状贈呈及び懇親会
平成26年10月18日 イベント 指導碁会（指導碁及び指導碁打ち放題）

役員等に関する事項

平成27年3月31日現在

役名	氏名	就任年月日	担任職務	備考
総裁	今井 敬	H16. 7. 13	総裁	新日鐵住金株式会社名誉会長
顧問	大竹 英雄	H24. 6. 26	顧問	日本棋院棋士 九段
理事長	和田 紀夫	H24. 6. 26	理事長	日本電信電話株式会社特別顧問
副理事長	蛇川 忠暉	H19. 4. 1	副理事長	日野自動車株式会社特任顧問
副理事長	山城 宏	H24. 6. 26	副理事長	日本棋院棋士 九段
常務理事	大淵 盛人	H26. 6. 24	総務人事部	〃 九段
〃	円田 秀樹	H26. 6. 24	関西総本部	〃 九段
〃	中小野田智己	H25. 6. 25	棋戦企画部	〃 九段
〃	宮川 史彦	H18. 7. 30	中部総本部	〃 七段
〃	久保 秀夫	H20. 12. 9	インターネット事業部・出版部	〃 六段
〃	平野 則一	H22. 7. 30	普及事業部	〃 五段
〃	真崎 秀介	H26. 6. 24	事務局長・財務部・ 経営企画室・海外室	株式会社情報通信総合研究所元常務取締役
理事	阿久根 操	H23. 6. 21		大成建設株式会社取締役
〃	足立盛二郎	H18. 9. 6		株式会社ゆうちょ銀行元取締役会長
〃	小川 誠子	H24. 6. 26		日本棋院棋士 六段
〃	角 和夫	H25. 6. 25		阪急電鉄株式会社代表取締役会長
〃	堀 義人	H25. 6. 25		グロービス経営大学院 学長
〃	松浦晃一郎	H23. 6. 21		元ユネスコ事務局長 世界ペア碁協会会長
監事	原 幸子	H26. 6. 24		日本棋院棋士 四段
〃	吉川 悦良	H22. 7. 30		公認会計士、税理士

平成26年度 事業報告

平成26年度事業報告には、「一般財団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成27年6月
公益財団法人 日本棋院